

第2回盛岡市デジタル化によるまちづくり推進戦略アドバイザーボード報告

日 時 令和4年12月1日（木）午後2時から午後4時まで

場 所 808 会議室及びオンライン（zoom）

出席者 4名（宇野委員、神尾委員、柴田委員、藤原委員）

開会

○吉田室長 ただ今から第2回盛岡市デジタル化によるまちづくり推進戦略アドバイザーボードを開会いたします。本日進行を務めます盛岡市都市戦略室長の吉田でございます。はじめに挨拶でございます。市長公室公室長岡市よりご挨拶申し上げます。

－岡市公室長 挨拶－

○吉田室長 本日の出席委員については、委員名簿をご覧ください。岩手県ふるさと振興部科学・情報政策室室長藤原様が初めての参加でございますので、自己紹介をお願いいたします。

－藤原委員 自己紹介－

○吉田室長 それでは3の協議に移りたいと存じます。これからの進行は神尾座長をお願いいたします。

○神尾座長 初めに、(1) 盛岡市デジタル化によるまちづくり推進戦略（案）について 事務局より説明をお願いします。

－IGP 鈴木 説明－

○神尾座長 非常に多岐にわたる資料内容となっており、戦略の骨子、戦略コンセプト、戦略目標、そしてそれに基づいた行動指針案を経て、具体的な取り組みにつなげていくということだと思います。また、骨子を作成するに当たり、広範なサーベイをしていただいています。市民アンケートはこれからということですが、市民ワークショップは非常に興味深く、市市民の関心がどこにあるのか、ペーパーからも良く見てとれると思います。庁内の意見もDX戦略を実施していくうえで重要な情報を提供してくれています。議論の進め方ですが、まず、質疑があればお聞きをして、その後、全体的な骨子やコンセプト案についてのご意見と、それからそれに基づく行動指針案に書かれている個別の取り組み、この2つに分けてご意見をいただければと思っています。宇野委員から、質問含め、骨子やコンセプト案についてご意見よろしくをお願いいたします。

○宇野委員 まず、コンセプト案について、9 ページのコツコツと盛岡の良さを紡いで伸ばすというところは、コンセプトの意味合いは分かりますが、これとデジタルとの関係が少し分かりづらいと感じます。“デジタル化推進によって”という風に書かれてあるから関係あるんだろな、とは思いますが、盛岡らしさというのと、デジタルがどうやって繋がってくるのかというところが気になります。12 ページにコンセプトを踏まえた将来像の具体例がありましたが、どの辺がコツコツと盛岡の良さを伸ばすところと関係してきているのか、その盛岡らしい部分というのがどこなのかということをもう少し具体的に説明していただけると分かりやすくなるかなと思います。

○IGP 鈴木 ご指摘のとおり、盛岡らしさとどう繋げていくのかについては、まさに検討事項となっています。盛岡らしさとは何か？という部分について、市民ワークショップや庁内職員の皆様とのアンケートやヒアリングにて伺っていますが、加えてこれから実施予定の市民企業アンケートにて、盛岡らしさの言語化を図っていきたいと思っております。具体的には、そこで出たご意見を踏まえ、盛岡らしさの言語化をした上で本戦略に繋げていきたいと考えています。従いまして、宇野委員がご指摘いただいたところは、我々も想定していた課題ですので、今後の市民アンケートを踏まえてリバイズしていきたいと思っています。

○宇野委員 そうするとこれは最終案というよりは、まず「盛岡の良さを伸ばすために」という共通認識を本会議にて共有し、具体的な盛岡の良さについて、市民の意見を踏まえて方向性などを決めていくという段階である。という理解でよろしいでしょうか。

○IGP 鈴木 デジタル田園都市国家構想等では、現状の課題解決といった弱点克服が中心となっている印象があります。我々としては、盛岡市の良いところを伸ばしていきたいというポジティブな形で盛岡市のデジタル化推進を考えていますので、「盛岡のらしさ（良さ）」は何か？という部分を、外部有識者の皆様と共通認識を得た上で、進めていきたいと考えております。

○宇野委員 課題解決ということが対比としてあるわけですね。課題解決だけじゃないプラスアルファのところまで目指そうというようなニュアンスでしょうか。

○IGP 鈴木 そのとおりです。弱点克服施策ばかりだと、デジタル化による市民の満足感などが得にくいのではないかと想定しています。また、今回アンケートやヒアリングを実施する中で、やはり盛岡の方々、地元が大好きな方が多いと感じています。そのような市民の皆様が感じている「盛岡の良さ」を伸ばしていく中で、「デジタルを活用すると、このように（さらに良い部分が）伸ばせる」というところを実感していただけることを目指しています。

○宇野委員 分かりました。今のがすごく良くわかる一方、例えば、アンケートの中では除雪の問題であつたり、あるいは交通関係の問題であつたり、すごく不便に感じている部分もあると思います。気持ちの問題としては、盛岡が好きで、文化的にも愛着を持っているけれども、どうも生活しづらいといったニュアンスもあると感じておりましたので、長所を伸ばすということは、すごく良いことだと思う一方、直近の市民のニーズである生活利便性の向上なども記述として含まれていると良いと思います。ただ、あくまでもコンセプトであるため、課題よりも魅力を伸ばすというものでも良いかな、とも思います。けれども、課題解決といった部分をうまく表現できるとより良いかなと思います。

○神尾座長 確かに、長所の部分と課題の部分は両方あると思いますので、どちらかを強調するだけでなく、うまく両立するような書き方を検討してみてください。次に、柴田委員よろしくお願いします。

○柴田委員 今の議論に近いと思いますが、盛岡の良さを伸ばしていく、かつ短期間というより長期的にやっていくというのは非常に良く分かります。他方、今、喫緊で解決しないうちになかなかその先が見えなくなるというようなものもあると思います。例えば、前回も話をしたとおり若者たちがどんどん市外・県外に流出している。これは、喫緊に対策しないといけないと思います。また、非常に冬が厳しいことへの対応など、様々な分野に関連するため、喫緊の課題についても内容として含まれる必要があると思います。それから、県のDX推進計画だと、時代や環境変化に応じてスピーディーに柔軟にアジャイル的に対応することが重要だ、という計画と読み取れる一方、盛岡市のコンセプトがスローでコツコツとした対応と読み取れてしまう部分もあり、県と市で少し違った視点かなという印象を受けたのですが、これはどういう風に捉えたらよろしいでしょうか。

○熊谷主任 コンセプト案について、我々もまだ最終案とは考えておりません。現段階では、キャッチフレーズのように、このコンセプト案が、市民や企業の皆様にとって目指すべき方向としてポジティブに思ってもらえるような、上向きの印象を与えるものが良いとの思いが、第一にありました。また、コツコツという部分については、盛岡人らしさとして「着実に」という意味を込めております。ただ、擬音語のような「コツコツ」という表現を使用しているため、受け取る方によっては「コツコツ」が速度感と捉えられるのではないかとこの懸念はありました。従いまして、今後もコンセプト案の表現については、事務局にて議論を重ねていきたいと考えています。元々、デジタル推進という言葉は、スピードの「速さ」というイメージがあると事務局では想定していました。従って、今回提示したコンセプト案では、デジタルに馴染みのない方々に対して「皆様を置いていかない」、「市として、みんな成長する」というイメージを少し強く打ち出しすぎた部分があるので、コンセプトと市が持つべきスピード感と向かうべき方向性というところについて、誤解なく理解いただける

ような示し方を検討したいと考えています。事務局としても、皆様のご指摘いただいていることのイメージを理解はできているものの、まだ形にできていないものです。

○柴田委員 クオリティの優先という視点で、非常に良いワードだと思います。それが、「コソコソ」だとか、それから従来の盛岡の文化や歴史、生活等が良いクオリティに向かっていくという、そのような推進の方向性がわかると良いと思います。結果として市民目線においても、今よりも生活が向上していくという安心感や非常にポジティブな生活感が出るのではないかと思います。

○藤原委員 9ページの戦略コンセプト案の“デジタル化推進も謙虚に”という部分が、少し奥ゆかしすぎる印象があります。盛岡市はデジタル推進が遅れていると言われていても、都市部であり、PayPay やUberEats 等の全国サービスが導入され、盛岡市民の方々は当たり前のように使っているため、全国サービスの恩恵に関しては、既に享受できている部分はあると思います。そういった部分も盛岡の強みだと思いますので、デジタル化推進に向けたポテンシャルはあると考えています。盛岡市には若い方々も多いですし、市外に流出してしまうと言われていているものの、専門学校数は東北地方でも多いことがありますので、若い世代を取り込むというような施策等も必要かと思います。全体的に見て町屋のイメージがあるほか、都南や玉山地区が合併して盛岡になったという背景もありますから、一部の地域で近郊農業も残っているとといった部分も十分資源になりうると思います。ですので、企業だけではなく、一次産業を頑張っていらっしゃる方々もいるので、そういった点にも期待できると思います。新鮮野菜をレストランで食べられるところ等も強みだと思いますので、そういった内容が記述として取り込めると良いと思います。また、プロスポーツの拠点もあり十分に楽しめる一方、全国サービスと比較すると、公共バスでSuicaが使えない、電子母子手帳が当たり前になっていない等、元々、期待していたことが進んでいないという点に関しては、スピーディーに推進してほしいと思います。ただし、高齢者の方々への配慮も十分に必要だと思っています。

○神尾座長 ご指摘のとおりだと思います。中長期的な時間軸の話もそうですし 盛岡の現状が全国的な水準から見た時にどうなるか？というご指摘ですね。私もこのコンセプトについては、盛岡らしさがうまく表現されていると感じた一方、 デジタル戦略の実施によって最終的に何を目指しているか？この計画が実現した時の盛岡の将来の姿が、この戦略コンセプトでは、読み取りにくいと感じています。前回の会議でも、ローカルハブ、デジタルローカルハブのコンセプトが、盛岡のような中核的な都市のデジタル戦略を考えるうえで重要である発言しました。町の求心力があり、そこで色々な職場が作られ、今いる若者も、かつて出ていってしまった若者も戻ってくるといった将来のイメージ、すなわち、ローカルハブといった言葉がコンセプトの中にあれば良いと思います。市民の方々のニーズを満た

していくことは、すごく重要だと思います。市民といっても、どんな方々だと認識しているのか、例えば全体で見た時に盛岡市は、単身赴任などの支店勤務を契機に単身赴任というかたちで居住している人が相対的に多い印象をもっています。このように市民の年齢層や今までどのような生活をして、どこに住んできている人が盛岡に今住んでいるのか、誰に尋ねるかによって市民の意識はだいぶ違うと思います。昔からずっと盛岡に住んでいる人に聞いたニーズだけに依っていくと、戦略がやや近視眼的になってしまうと懸念してします。、戦略のコンセプトを策定するにあたっては、市民からのデジタル化へのニーズに加え、国や都道府県からみた位置づけや期待や、前回も申し上げた、ゼロカーボンなどの社会課題への対応の視点も考えていく必要があると思います。先ほども藤原委員から発言があったとおり、岩手県の中核、しかも県庁所在都市、北東北の物流・旅客拠点広域である盛岡市というのは、デジタル化により雇用が生まれ、その雇用が生まれることによって若者が住みたいと思う都市になれば（市民ワークショップで聞かれたような）若者が住みたい町に繋がってくると考えます。従って、市民ニーズからは遠いと感じる内容についても、デジタル戦略に盛り込んでおくことが重要だと思います。もう 1 点は、12 ページで、市民の生活と地域の経済、まちづくりの関係は並列なのか、また市民の生活というのは、市民に着眼しているのか、生活に着眼しているのか。また、生活は日々の生活に着眼しているのか、ライフプランというかその人に人生に着眼しているのかで、これも 2 つの意味があります。もし后者であれば、そういったシーンごとに考えるべきであり、前者であれば、どの市民に対して影響するコンセプトなのかというのをはっきりさせていく必要があると思います。また、地域の経済についても、誰に影響するコンセプトであるのか漠然としているため、扱いが難しいと感じます。例えば、大学や研究機関もステークホルダーであり、また農業も産業的な側面から対象にすべきであり、企業・事業者やベンチャー・スタートアップ等も地域経済の対象となります。そして、非常に重要なポイントと考えているまちづくりについて、例えば 19 ページの市民の生活の行動指針案においても、”まちを実現する”と記載があるため、2 つの異なる視点にて、同じ”まち”を語ってしまっています。すなわち、市民の生活を支えるデジタル化、それから地域経済を活性化させるデジタル化、それを空間で支えていくまちづくりとなる位置付けが整理されていると良いと考えます。そうした時、将来像として、盛岡の中心市街地はかなり活性化していると考えられますし、市内の様々な拠点に行ってみてもそれなりの求心力があり賑やかな状態だと思います。そのために、サイエンスパークや大学拠点、盛岡駅やバスセンター等に対して、空間自体への挺入れや、その空間自体をデジタル上で再現し、交通の管理、CO2 の削減などをシミュレートする、また空間としての街の魅力を国内外に広くアピールする等のデジタル化施策を進めることが必要かと思います。例えば、活気のある盛岡中心市街地をメタバースで表現するなど、市民の生活や地域経済を支える空間をデジタルでどう作るのかなど、が書かれていると良いと思います。その上で、市民の生活と地域経済とまちづくりを繋ぐ際、どのようなイメージになっているのかが重要と考えます。例えば、“中心市街地の課題を解決するために、市内のスタートアップ企業が盛岡を基

盤に様々なアイデアを使ってビジネスを切り開き、それを世界に展開して、盛岡が全国的な求心力を持っている”。このような言葉がいくつか並ぶと、この市民生活と経済とまちづくりというのは、デジタル化を通して一緒に実現する意味があるのだな、というのがわかってくると思います。従って、今市民、地域、まちづくりという3つのコンセプトがバラバラになっているのを、市民目線にてイメージを具体的に記載すると、3つの視点を一緒にやることの意味がさらに分かりやすくなるかと思います。今回も様々な指摘やコメントがあり、修正が大変かと思います。また、これまでの内容を1つのコンセプトにしようとしてもそう簡単にはできない話だとも思います。「盛岡の良さを伸ばしていく」思いは、非常に分かりました。あとはゴールとプロセスと、それから課題にもしっかり対応していくことをどのような言葉を使って表現していくか、これを熟考する必要があるそうです。また、まちづくりについてですが、先々週、バルセロナのスマートシティエキスポに視察に行ってきました。バルセロナには、市民が行政に対してスマホを通して色々な意見を言うシステムというのが以前からありますが、その技術自体が進歩しているというよりは、むしろ集めた個人情報をもどのように扱うか（利用するか）に対する意識がありました。スマホを使ってレンタルサイクルを自由に市民が借りられる、ゴミ箱も分別するのが非常にたやすくなっている、ボールが道路の中心部に立っており、車が通行できないようになっているものの、宅配等で人がその中に入る際には、マイナンバーカードに近いようなものを入口のところでかざすと、一時的にボラードが下がってその時間だけ通行できるようになっている。バルセロナでは、すでにリアルな空間にデジタルが無意識に活用されており、それが市民の安全に繋がっています。このような事例は、将来的な取組みになるかもしれませんが、盛岡の中心市街地においても活用できると思います。また、郊外でも同じようなデジタルを使った空間再生のイメージを描くことができると思います。盛岡でも、こういった世界の取組み参考にしつつ、「これが中核的都市の都市空間・中心市街地のデジタル化のモデルです」と言える事業などがあると良いかと思います。

その後の行動指針や非常に具体的な課題等が資料の後ろに記載されていますが、そのような点も含め、追加で盛り込むべき内容やコメントがあれば引き続きよろしくお願いいたします。宇野委員いかがでしょうか。

○宇野委員 庁内でのヒアリング結果を見ると、色々やってはいるけれども内部的なデジタル化に注力しているというようなことが書かれていたと思いますが、やはり、市役所自体をそのデジタル化していくことで、生み出した余力を他のところに使っていくというような、まさにアナログなところを充実させていくというような方向性もあろうかと思いますので、直接的なデジタル推進ではなく、デジタル推進による間接的な効果といったテーマを内容に入れても良いかと感じます。ただし、内向きな感じがするため、本戦略の内容として記載しにくい部分もあろうかと思いますので、アナログ的なものとの繋がりを指摘しつつ、表現として入れ込んでいく必要があると思います。市民ワークショップにて、雪関係の課題が多

いという話がコメントでありました。なにかその辺りでデジタルを使ったらどういうことができるのか、こんな事業があったらいい等、市民の皆様から伺ったことを踏まえ、そこで出てきたものを戦略の中に盛り込んでも良いかと思います。

○柴田委員 今のお話に関連するかと思いますが、38 ページの庁内デジタル活用状況や推進における課題等を見ると、職員の経験不足に対する不安や、あるいはデジタル化の必要性等が結果として出ているため、やはり、庁内のデジタル化というのを喫緊でやっていくべきだと思います。庁内のデジタル化が進まないと、市民が受ける恩恵やサービスの改善を実感できにくいと思いますので、そちらも進めていただきたいと思います。

○吉田室長 盛岡市にて庁内の DX 推進計画は、R3 年度からすでにスタートしております、本戦略では、それと重複する部分は除いて戦略を策定する趣旨でございました。窓口サービスを便利にする、職員の使っている紙をデジタル化にして利便性を上げていく等は既に計画済みとなっております。

○神尾座長 現状の課題の部分で、“定常業務の逼迫により”という部分について非常に良く分かります。私も別の自治体に携わった時、デジタル化によって効率化するはずが、逆にデジタル化により業務が増えてしまうという話があったりもしました。業務プロセスをどう移行してくのかという点にもついても、行政 DX 計画には入っていますか？

○吉田室長 まずは職員のマインドを変えいかなくتهはいけないという部分で、現状は目の書類を片付ける取組みの後にデジタルのことを考えようとなっているものを、職員のマインドを変えていくことによって、目の課題を片付けるためにどうデジタルを活用したらいいだろう、という考え方になるような方法で進めていきたいという風に考えています。

○神尾座長 盛岡市におけるスマートシティに関する取組み（ドローンの実証など）などが新聞等で紹介されています。今回のまちづくり戦略は、このような取組みが前提になっているのか、それとも今回検討しているまちづくり戦略の中に含めていくのでしょうか。また、県でも様々な取組みを実施しており、それらは本戦略の外側に位置づけるのか、それともこの戦略に盛り込むのか、それぞれの関係性について、どうお考えでしょうか。

○吉田室長 具体事業は本戦略に盛り込んでない状況ですが、今後、具体的な事業を盛り込んでいく際、庁内各課で独自にやっているデジタルの事業についても取り込んでいく想定です。

○柴田委員 個人的に、道路状況を日常的にリアルタイムで把握できる施策が必要と考えており、具体的には、どこに積雪が残っていて、これから1時間後にどこが凍結するとか、そういった情報が事前にスマホで表示される。また、今日の凍結状況を示すことで外出に対する警告が出てくる等の機能があると良いと考えています。凍結自体をデジタル活用で融雪剤を巻いて対処するという機能はまだ難しいと思いますが、情報提供であれば、デジタル活用にて叶えられる時代になっているため、生活や道路環境に関する情報を市が流せると良いかと思います。

○吉田室長 市民からの話としても積雪の情報、凍結の情報、除雪の状況がどうなっているのか知りたいという声がありました。そのような課題については、デジタルで解決しやすい部分でもあるかと思いますので、本戦略内に位置付けながら短期的に取り組んでいきたいと考えています。

○神尾座長 盛岡らしい課題かと思います。

○岡市公室長 岩手県立大学と共同で実施している盛岡市まちづくり研究所にてデジタルの取組みを行っており、先日報告があったのですが、除雪関係の話がありました。一部ですが、除雪エリアの情報や、除雪車の効率的な配置等についてデータを収集しながら行う等、除雪車に設置しているGPSをうまく活用できる方法について話ができました。また、除雪だけでなく、道路の部分的な陥没が散見されることもあり、道路の舗装状況等もすべてデータ化して活用していければ、このような問題も解決できると考えています。その辺りも、セットで考えていけるとより市民のためにもなると考えています。

○柴田委員 大学としても使命感を持って取り組んでいるため、どんどん活用してもらえればと思います。

○神尾座長 それはオープンデータになると思います。盛岡市の中だけでなく、外側の情報も含めて公開しないといけないと思います。あるいは、全体的なプラットフォームに載せていくという場合もあるかもしれないと思います。あと、大学との共同研究においてCO2の話題は取り上げられていないのでしょうか？CO2が全体としてどこで発生しているなど。費用対効果の関係から難しい部分もあると思いますが、実際に排出している量と理論上で計算した数値とおそらく両方が必要になると思いますので、それらを1つのオープンデータとしてまとめられると良いとも思います。では次に、藤原委員いかがでしょうか。

○藤原委員 盛岡は林業も盛んなため、Jクレジットという考え方もあります。またマイナンバーカードについて、盛岡は県内では取得率の高い自治体であることから、マイナンバー

カードを活用した取組みなどを実施してほしいと思います。

○神尾座長 市民ワークショップの際、マイナンバーの話は出ましたか。

○吉田室長 マイナンバーの話は、市民の方々からは特段、意見として出なかったです。ただ、我々からも意識的に話題を振るということはありませんでした。

○藤原委員 おそらく、意図的に市民に向けてマイナンバーカードの活用推進を進めていかないと、市民の意識があまり変わらないところだと思います。基本的にマイナンバーカードは、引っ越さなければ使わないものだと思いますので、独自のサービス提案はこれからしていかなければならないと考えています。

○岡市公室長 ここは庁内職員でも考えていかなければならないところだと思いますが、先ほどもあったように普段の業務に時間がとられていることもあり、なかなか考え至らない現状があります。おそらく活用イメージ等は持っていると思いますが、具体的な活用方法などはまだわからない状況と推測しています。従いまして、今、先進地域の情報等を集めており、先日、岩手県市長会にて市長が前橋市に視察に行ってきました。そこで得た情報を各課に流しつつ、マイナンバーの交付率が国のデジタル田園都市国家構想交付金の活用にも影響が出てきそうな状況ですので、セットで進めるということも考えていきたいと思っています。

○神尾座長 この戦略を作る際、時間軸として、初期は喫緊で解決したい課題に取り組みつつ、2024～2025年ぐらいまでにマイナンバーカードの交付率が6～7割には到達しているだろうと想定されるため、すでに実施している他のサービスの幅がさらに広がったり、市民の利便性が高まったり、まちづくりに貢献できたりという、マイナンバーが普及・浸透することによる変化を踏まえ、5年後の姿を考慮して本戦略にしっかり盛り込んでいってほしいと思います。

○藤原委員 ぜひ力を入れていただければと思います。

○神尾座長 県のオープンデータと盛岡市のデータとの連携はされているのでしょうか。

○藤原委員 お互いにそれぞれが持っているデータを活用するという形です。県のデータは、各市町村のデータの積み上げのようなものであるため、各市町村にて独自に取得しているデータもあります。ただ、全国的に見ると岩手県はデータ連携が進んでいない状況です。

○神尾座長 データ連携については、業界関係やインフラ関係、あとはスタートアップが割とそのようなアプリケーションを作ったりしています。日本では大規模な都市 OS を構築するイメージが強いですが、海外ではスマホのアプリケーションとして小型化しており、大きなコストはかからないと思います。都市のエネルギー量や人流、交通データなどがすべて入っているが、こんなに簡単でコストも低いなどとたくさん PR されました。ただし、当然、調達の問題などはあるため、そう簡単に進む話でもないと思います。次に、街灯の上に太陽光発電をつけるようなインフラ×太陽光発電もスタートアップでした。世界的に見ると、今、社会課題と言われているものは、少し修正してアイデアを加えれば、ある程度解決できると思います。逆に、そのマーケットにグローバル企業も自治体もスタートアップもすべて参入しているので、過当競争になっている節も見受けられます。ただ、そこに雪や寒冷地仕様×エネルギー×インフラのような合わせ技で、例えば、街灯を少し変えるなどがまちづくりになっていくと思うので、そういったコンセプトや事業を本戦略にて展開していけると良いと思います。また、戦略目標案について、通常は課題があり、それから戦略の内容、そしてそれを実現するための行動指針となる印象ですが、現在の行動指針は戦略の内容が抜けている点に違和感があります。むしろ目指すべき方向という用語がしっくりきます。この課題に対してどういう戦略を作るのかというように、課題と戦略がある程度対応している形のほうが良いのではないかと思います。18 ページに結構細かく書かれている内容については、ある程度、様々なデータで裏付けられているということでしょうか。例えば、交通のところで冬期の積雪の影響の記載がありますが、ここに出てきていない分野にも課題があると思います。色々ある中で、例えば交通と医療福祉だけを抽出している理由や根拠があれば良いと思います。なんとなくアンケートや市民インタビューだけで「ここが重要だ」とやってしまうとどうしてここにターゲットを置くのかが分かりにくくなってしまう懸念がありますので、もし要望をつけるとすれば全体像を示すとか、あるいは盛岡市の特徴となるデータを示したうえで、盛岡では移動が課題なのか、教育なのか、医療なのかなどもう少し具体的に表せると良いのかと思います。

地域経済の付加価値の部分で、やはり第 3 次産業の割合が大きいけれども、物流や産業の特徴の状況、バイオといった研究開発なども、おそらく統計データに基づいて分析されていると思いますが、ここだけでも 1 つの大きなプロジェクトになると感じています。ところで質問ですが、地域経済のところに企業と書いてありますが、ここに記載されているヘラルボニーは福祉系のベンチャー企業でしょうか。

○藤原委員 知的障がい者を起用したプロデュース企業として、様々な企業等とコラボされています。

○神尾座長 既に盛岡で頑張っている企業・経営者の方がいると思いますが、もしかしたらここに成功事例のヒントがあるかもしれないと考えています。サービス系が中心となって

いる盛岡市として、社会課題対応型でビジネスを起こしてくるということと、先ほどのエネルギーなども世界共通の課題となっています。研究開発サービスの力で新しいビジネスモデルを作り、世界に売ってくような地域経済が盛岡で出てくると良いと思いますし、逆にそこを基軸にするべきだと思います。物流システムの構築も社会課題の一つだと思います。例えば、大きな製造業が地域にあれば、照明や半導体製造など、その裾野にて様々なメーカーがベンチャー企業を起こしていくと思いますが、サービス業のウエイトが高い盛岡では、それとは違うモデルを念頭に置き、DXを通して新しいビジネスやベンチャーが出てくる環境を整えていく必要があります。

○柴田委員 盛岡市周辺の情報サービス産業だと、隣接する自治体などに集積していますのでうまく活用できればと良いと思います。人材獲得を狙っている企業は結構いると聞いているため、そのような企業が盛岡に進出したいという気持ちはあるのではないかと思います。

○神尾座長 盛岡市外にそのような集積地があるのでしょうか。

○柴田委員 滝沢市です。

○藤原委員 イノベーションパークという名前です。

○柴田委員 今、集積しているのは22社程度です。

○神尾座長 広域という観点に関して産業や雇用など様々なことを考えていくと、やはり周辺の自治体を含めた形で、うまく戦略に盛り込んでいけると、岩手県の中核都市としての存在価値は大きくなると思いますので、そちらも検討していただければと思います。

○岡市公室長 広域圏はキーワードになると考えており、実際に盛岡広域圏でビジョンを作っています。盛岡市は県都でもあるため、広域を巻き込んでいく必要性は感じています。一方、推進方針などについての仕掛けを検討していく必要があると考えています。

○藤原委員 やはり医大が矢巾に移ってしまった理由もありますが、そのような意味では、機能が拡大しているとも言えます。昔は、盛岡に一極集中している状況でした。

○岡市公室長 今回の戦略にいれるかどうかは検討が必要ですが、「盛岡市として、様々な取組・計画を進めているから広域全体でもこういう取組を進めていきませんか？」といった

呼びかけを今後検討していきたいと思います。

○神尾座長 水平と垂直両方向で進めるということでしょうか。水平連携（市町村連携）でいうと三重県内の事例があります。岩手県は、県と市町村との距離が近い方だと思いますので、コミュニケーションも取りやすいのではないかと思います。デジタルガバメントに関して、岩手県と盛岡市で一体化している状況でしょうか。

○藤原委員 国で主導しているガバメントクラウドが共通的に整備されている状況ですが、今後独自システムを作っていくことも必要かと思います。それこそ広域や県と一体となって考えることは可能だと思います。保守運用の部分やスケールメリット、セキュリティを考えた場合、クラウドの統一は必要だと思います。

○宇野委員 1点目は、民間関係について民間からの提案や何かの盛り上がりみたいなものをどういう風に受け止めるのか。統一的な窓口を設けるなどといった施策もあり得るかと思いますので、その辺りの位置付けを伺いたいです。2点目は、特に GIGA スクール等を考えた際、パソコンを学生みんなが持ってきますが、机は旧来とおりで狭く、結果としてパソコンを落としてしまうという事象も聞いています。要するに、デジタルが進んでいく時に、非デジタルな環境整備というものをうまく併せて行わないといけないのではないかと、そうしないと結局は使いづらいのではないかと考えています。そうした非デジタルとして、デジタルを使うための環境整備との連携といった観点を伺いたいです。そして3点目に、盛岡の良さというようなことを議論していくとすると、特に市民生活の中で盛岡への愛着というのが、キーワードとしてあるのではないかなと思っております。その意味で、デジタルを使ってもっと盛岡に愛着持てるような、例えば文化面とか教育面などで単に成績を上げてくというだけではなく、盛岡を知るとか、盛岡をもっと好きになるようなデジタルの使い方という観点も必要ではないかと思っています。

○神尾座長 とても重要な指摘です。民間の提案を入れながらデジタルまちづくりを変えていくのは、ポイントかもしれません。そのような話と2点目として、第1回会議でも話題に出ましたが、デジタルと非デジタルの関係やバーチャルとアナログ、そこは常にバランスに配慮すること。あとは、盛岡の良さを市民に知ってもらうことに加え、外部の人に知ってもらうことが重要です。まさにデジタル技術の出番です。

○熊谷主任 民間からの提案については、企業に限定されてしまうところではありますが、現在、商工労働部にて実施している AI・IoT プラットフォームが、元々は民間同士の技術と課題を繋がり合わせたプラットフォームとして構築しました。ただ、今年度から始まったばかりということもあり、まだまだ参画加企業が多くない状況にあります。今後、もっとデジ

タル化を推進する中、行政に向けた提案や要望などを聞く場としても十分に活用可能と考えており、様々な業種の企業や法人団体などに参画していただき、そこで産学官民の情報交換や繋がり創出の場として育っていけば素晴らしい場になると思っています。プラットフォームとしてよりよいものにするため、本戦略が、機運醸成になれるよう頑張っておりま。環境整備に関しては、デバイス、通信環境、人材育成など様々な環境整備がある中、本戦略において実施していかなければいけないものと認識しております。ただし、施策優先度を考慮して対応していく必要があろうと考えています。例えば、GIGA スクールや学校の ICT 化も環境整備の一環になると思いますが、周辺システムやデータの利活用ができて、使う人がデバイスを持っていなければ何の意味がありませんので、戦略には必ず位置付けるものの、実際の事業として、どこから実施していくかについては、バランスを見ながら KPI の設定等も含めて検討していきたいと考えています。デジタルとアナログについての視点は欠かせないと考えています。当初、本戦略を作る際、デジタルの分野をどれだけ伸ばせるかという観点から入りましたが、あえて本戦略に「この部分については、アナログで歴史や文化として残していく」という部分を示し、共存という意味でデジタル化のみを目的としたものではなく、まちづくりのための手段としてデジタルがあるということを市民の皆様を知っていただけたと考えておりました。従って、あえてアナログとして残したいところについては、総論なり各論なり、何らかの形に残したいと考えています。そうすることで、様々な立場の方にご理解をいただいて、ご協力をいただけるのではないかと考えています。また、愛郷心の醸成に繋がる部分も多分にあると思います。ただし、すべての内容を盛り込んだ結果、情報過多となり、方向性が不明瞭になっている状態は避けたいため、表記方法を工夫し、記載場所、順番、データ量等を含め、本戦略をより分かりやすくしていきたいと思っています。

○神尾座長

プラットフォームは1つになるのでしょうか。それとも、そのようなプラットフォームがたくさんできているのでしょうか。

○熊谷主任 今のところは、企業系プラットフォームが1つあるという状態です。現在は、商工労働部が中心となっているので企業ベースに作っていますが、今後は、そこに農家さんや様々な分野の方々が参画できるように我々の方から少し働きかけていきたいと考えています。農業と先進のデジタルや、企業・学校のデジタルなども含め、いろんな分野の方が活用していただける良いプラットフォームを作ってほしいと考えておりましたので、本戦略も連携していく想定です。

○神尾座長 分かりました。では、次に令和5年度のデジタル田園都市国家構想交付金の活用についての議論に移りたいと思います。事務局から説明いただいてもよろしいでしょう

か。

－熊谷主任 説明－

○神尾座長 今、ご説明いただいた内容について、提案やご質問があればいただければと思います。

○柴田委員 最近の Wi-Fi は、だいぶスピードが上がってきています。Wi-Fi 6E のというのもありますが、まだほとんど使われていないため、活用すると非常に利便性や快適性が向上するのではないかと思います。端末に直接繋げなくても、いったん、どこかに繋いだものを次に受けて発信する方法もあるかと思います。

○吉田室長 端末の対応等もあるとは思いますが、6E に対応するようなものを用意していく必要があると考えています。また、工夫しながら効率良く学校の授業の時に、画面が固まるなどということがないようにしていきたいと考えています。

○藤原委員 デジタル田園都市国家構想交付金に関して Type2 事業は申請されないのでしょうか。

○熊谷主任 当初は考えておりましたが、マイナンバーカードの条件面で申請しない方針です。

○藤原委員 申請条件であるマイナンバーカード交付率ですが、盛岡市は全国平均以上だったかと思います。

○熊谷主任 現状は全国平均以上となっています。ただ、他自治体も申請前の追い込み状況次第で、全国平均が上がるのが想定されます。Type2 事業は、コンソーシアムの形成などが必要となる大きな事業が対象であるため、民間企業を巻き込んだ状態で申請をし、結果としてマイナンバーカード交付率で採択不可となった場合の懸念を考慮して今回は TYPE1 に限定しました。

○藤原委員 ローカル 5G などの活用については検討されていますでしょうか。

○熊谷主任 国からも積極的にローカル 5G の技術についての周知はありましたが、まだ具体的には考えておりません。民間との兼ね合いもあり、盛岡であれば、少し待てば民間企業の 5G 回線導入に期待をしています。中山間地域は、回線導入については厳しいと思いますが、費用対効果の部分で中心部や人口の多い地域に導入されれば、満足度の高い通信環境の

整備になると思います。中心部に関しては、ここ数年で民間企業の 5G 回線整備がなされると考えておりました。

○柴田委員 事業者の中には、すでに 5G が入っているところもあります。それ以外にローカル 5G として構築は考えていないのでしょうか。

○泉川副主幹 現段階で事業の中に入れることは考えていません。先ほど熊谷から費用対効果という言葉が出ましたが、やはり目的や課題解決が先行していないと、ローカル 5G の整備が目的になってしまうと導入は難しいと考えています。

○柴田委員 学校で動画や映像を積極的に授業で使う、あるいは遠隔で授業を実施するという時代がもう来ているため、需要も見えてくるのではないかと思います。

○泉川副主幹 維持費等がさらに安価になり、享受できるメリットの方が十分大きいということになれば良いと思います。ただ、現状では、なかなか組上に上がってこない状況です。

○神尾座長 まちの防災無線に関してはどうでしょうか。お年寄りや、まちの防災無線が聞き取りづらいつか、反応しづらい部分もあると思います。

○熊谷主任 防災無線自体は、玉山地域で現在も実施しています。都南など旧盛岡地域はもうやっていないと思います。

○神尾座長 支所間の話になりますが、広いところは支所間のコミュニケーションのためにローカル 5G などを繋げてインフラを構築して電子会議室を作るという取組みを行政 DX の中に入れて申請している事例もあります。

○吉田室長 その内容についても既に検討はしています。ただ、現回線で Web 会議等はできる状況になっています。

○神尾座長 承知しました。では、こちらの議題は終了とさせていただきますが、先ほどの骨子の話や、まちづくりの位置づけ、段階論、マイナンバーの件、広域の観点などいくつかポイントとなる話が出てきました。こちらについては、今後、整理をした上で、どのように戦略に組み込んでいけるかについて、またご相談させていただければと思います。それでは事務局のほうにお返しします。

○吉田室長 では、次第の最後として、4. その他でございます。これまでの議論の部分も含め、何か皆様からの発言がありましたらお願いいたします。

○神尾座長 次回、KPI の話をどこかでできればと思います。どのような目標を立て、本戦略を進めていくのかという点を議論したいと考えています。

○吉田室長 承知いたしました。次回のアドバイザリーボードですが、2月を予定しております。詳細については別途ご案内いたします。

○熊谷主任 この会議を持ち、おおよその方向性については、たくさんいただいた意見をこの後、事務局にて整理をしますが、その後、戦略本編を作成する予定です。そこで、1月下旬には、本編の第1版を皆様にデータとしてお渡しし、それを1～2週間にて確認いただき、赤を入れていただいた状態にて事務局にバックしていただきたいと思います。それを我々として、戦略策定時の行政内部のルールとして各種会議にかけ、政策として中身を揉んだものを、第3回外部有識者会議の2月にまた皆様と議論したいと考えております。そのためデータだけ先行してお渡しする形になると想定しています。

○吉田室長 それでは以上を持ちまして、第2回盛岡市デジタル化によるまちづくり推進戦略アドバイザリーボードを終了いたします。どうもありがとうございました。